

行田 歴史系譜 325

資料がかたる
行田の歴史 25

転封を記録した人々

文政6年(1823)3月24日に桑名から忍へ転封を命じられた松平家では準備に忙殺されましたが、その中で転封の経過を記録していた家臣たちがいました。また、忍藩領の村々の中にも、新しい領主を迎える様子を書き留めていた人たちがいました。今回の歴史系譜はそれらの記録から転封の様子を垣間見たいと思います。

桑名城の引き渡しを担当した家臣のうち、柴田家には「御得替諸事覚帳」が伝えられています。「御得替」とは転封のことです。その財政負担を考えれば得があるとは言えないのですが、転封は幕府からの命令ですからこのような表現になっています。この記録では転封の発令から始まり、藩主から家臣への転封に対する心構えの通達、引越しの荷物運送の段取り、桑名城引き渡しの経過などが記されています。家臣たちは東海道と中山道に分かれて忍に向かいましたが、どちらを通るかはくじで決めましたようです。



柴田家(右側)と小池又右衛門の記録
(行田市郷土博物館収蔵)

た、奥平十郎左衛門は内行田や下荒井といった武家屋敷の区画ごとに阿部家の家臣名と、そこに新しく入る松平家の家臣名を対比して記しています。新しく長屋を新設するなど阿部家より家臣の多かった松平家が屋敷の確保に苦心していたことが分かります。

一方で、農民側の記録をみると、佐間村の小池又右衛門は、忍城の建物ごとを受取を担当する家臣の配置を詳細に記しており、どのような体制を組んで城受取の当日を迎えたかが分かります。藩主松平忠堯の初のお国入りの記述もあります。11月12日午後1時ごろ佐間村に到着し、家老たちの出迎えを受け、新町からは行列を組んで忍城へ入ったようです。

松平家の転封は113年ぶりです。行田町や周辺の村々も領主が交代するのは184年ぶりですから、誰も経験したことのない出来事でした。しかし、そのような状況下であっても彼らが記録を残してくれたことによって、私たちは松平家の転封の実態を知ることができます。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

はじめまして



令和2年6月生まれのお子さんを募集します

- 4月1日(木)～30日(金)に電話またはEメールで広報広聴課(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、5月6日(木)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和2年4月生まれのおともだち



小林 勇斗 ちゃん(旭町)
令和2年4月30日生まれ
父・修さん 母・久美子さん
「家族のアイドル!」
「すすすく元気に育ってね!」



河野 桜子 ちゃん(埼玉)
令和2年4月12日生まれ
父・直仁さん 母・知子さん
「☆幸せをありがとう☆」



赤井 結音 ちゃん(緑町)
令和2年4月28日生まれ
父・亮司さん 母・仁美さん
「つよくてやさしい子に
育ってね☆」



長谷川 陽菜 ちゃん(城西)
令和2年4月24日生まれ
父・貴裕さん 母・茉美さん
「みんなを笑顔にしてくれて
ありがとう☆大好きだよ!」



小池 晴菜 ちゃん(埼玉)
令和2年4月29日生まれ
父・健晴さん 母・早紀さん
「丸ごと全部大好き!」



鳥澤 空倉 ちゃん(持田)
令和2年4月13日生まれ
父・剛さん 母・明日香さん
「笑顔いっぱい☆
「元気に大きくなってね!」

今月の表紙

無人航空機(ドローン)から、桜が咲き誇る忍城を空撮した写真です。

春の訪れとともに、新たな年度がスタートしました。市報ぎょうだでは、今年度も新型コロナウイルスをはじめとする各種情報や市政情報をお届けします。



目指せ!友だち登録10,000人!
(現在7,000人)

行田市公式LINEの
友だち登録はこちらから!

●市政・イベント・防災などに関する行政情報を発信します。

ホームページ <https://www.city.gyoda.lg.jp>



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています